

北陸大学図書館報

Bulletin NO.41

⇒ をクリックすると本文がご覧になれます。

⇒ 私たちが平成28年度の図書館委員です

⇒ 学問の拠点としての図書館

松本 和彦
(図書館長・未来創造学部教授)

⇒ 教師 冥利

村山 次哉
(薬学部教授)

⇒ Prag能く、Die Verwandlungを制す
(プラハに行けば、『変身』が理解できる)

南谷 直利
(未来創造学部教授)

⇒ 美しい蝶への完全変態を目指して

安田 優
(未来創造学部教授)

⇒ 本とわたし

山崎 眞津美
(薬学部准教授)

⇒ 同じことを考えている仲間が
さらに何を企んでいるのかを探る場所

高橋 純子
(新学部設置準備室准教授)

⇒ 図書館には情報がたくさん！

鈴木 宏一
(薬学部講師)

⇒ 平成28年度日本薬学図書館協議会研究集会開催

⇒ 第1回読書推進懇談会を開催

⇒ 寄贈図書

⇒ 目次

北陸大学図書館報



私たちが平成28年度の図書館委員です



～～ 学問の拠点としての図書館 ～～

イマヌエル・カントという名前を聞いたことがあるだろうか。

批判哲学を樹立したドイツの哲学者である。1764年、40歳のときベルリン大学の詩学教授を打診されたのだがそれを断り、翌々年、生地ケーニヒスベルク宮廷図書館司書となり5年間勤めながら学問に専念した。その後もエアランゲン大学の招請を断り、イエーナ大学の招聘も辞退した。母校ケーニヒスベルク大学哲学部教授になったのは46歳のときである。これ以降20年間にあの三批判書が続々と出版される。宮廷図書館は主に大学関係者が利用していたようだが、研究という意味では恵まれた環境にあったのではなかろうか。

20世紀の偉大な法学者を挙げるとしたら誰を想起するだろうか。

私はハンス・ケルゼンを挙げたい。純粋法学を構築した新カント主義ウィーン学派の指導者である。1940年アメリカに亡命し、1945年カリフォルニア大学バークリーの正教授になった。ケルゼンの膨大な研究業績を考えれば、書齋は多くの著書で埋め尽くされているに違いないと私は思っていた。しかし次女の話によれば、「父はもっぱら図書館の本で仕事をした」とのことである。ケルゼンもカントと同様に恵まれた環境のもとで研究に没頭することができたことが窺える。民主主義の精神は学問の発展に貢献するというケルゼンの主張は、今日においても重要である。『民主主義の本質と価値』（第2版 1929、岩波文庫 2015年、長尾龍一・植田俊太郎訳）をぜひ読んで欲しい。

大学の教育・研究に対する姿勢は図書館のあり方に端的にあらわれている、と言っても過言ではない。

（松本和彦 図書館長・未来創造学部教授）

～～ 教師冥利 ～～

私は、4年次生後期の教室配属学生が決まると卒業まで2年間の努力目標を決めている。四字熟語で表すことが多く、セミナー室の彼らの目の届く場所に掲げている。ちなみに最近3年間のそれは「愚公移山」、「見兎放犬」、「入神致用」である。これを基に彼らと機会あるごとに会話し、薬学という学問のあり方、研究に対する考え方、国試対策の方向性や取り組み方等を説いて戒めとしている。少しずつではあるが、彼らが変わって行くのを実感する。いわゆる“目の色が変わってくる”のである。そして卒業するころになると、物凄い成長した姿を見せてくれる。そんな彼らの変化と成長を見るのは実に頼もしく、そして誠に嬉しいものであり、教師冥利に尽きる。若い学生諸氏は、大いなる能力と限りない可能性を秘めており、そんな彼らに対して、いくつかの道標を示して行く事は、強い責任感と共にやりがいを感じる。良き教授人であり続けるために、今日も書物と戯れる日々である。

（村山次哉 薬学部教授）

～～ Prag 能く、Die Verwandlung を制す (プラハに行けば、『変身』が理解できる) ～～

未来創造学部スポーツコース在籍の中村映斗 (なかむら・えいと、20歳) 君と読書の話をしていました。私が彼に、「Franz Kafka (フランツ・カフカ、40歳没) を知っているか」と問うと、彼は私に、「『変身』(Die Verwandlung) の著者で、人間が虫に変身することから始まり、その家族の顛末をあらわした小説です」と答えました。よく聞いてみると、お祖父さんの書棚から手に取って、読んだそうです。大学内や家庭内において、読書に没頭したり、このような読書の話が気軽にできると、最終的には人間の考え方、生き方、そして人生の質が向上するに感じます。これから学生諸君に、「読書が教養確認や就職合格のみならず、いずれは長い人生にも役に立つ」、ことを伝えていきたいと思います。可能であれば、彼 (本学柔道部所属) のような学生達に新設、「本学図書部 (クラブ・サークル)」を立ち上げてもらって、学内の活動と質が高まり、学生の読書行動がより活性化していくことを期待しています。

あと一言付け加えるならば、Die Verwandlung の著者の記念館がチェコ共和国の首都プラハ (Prag) にあるので、学生時代に足を運んでみると、小説の一つひとつの良さが強烈に、心に刻まれると思います。著者がユダヤ人で、元ボヘミア王国労働者傷害ほけん協会プラハ局員であった経歴も、執筆作品に影響を与えていると推察されます。今日において、介護殺人や非健常者に対する差別行為が、それから一世紀経ても減少しないのは、何故でしょうか。いろいろな出版社から文庫本が出ていますので、ぜひお読み下さい。

「Prag を視ずして、Die Verwandlung を語るなかれ」。

(南谷直利 未来創造学部教授)

～～ 美しい蝶への完全変態を目指して ～～

読書の有益性についてはこれまでに多く語られてきました。一部の研究者たちによると、読書は心の安定や脳の活性化といった想定内の効果だけでなく、良好な人間関係を築いたり、人間としての魅力を高めたりする効果もあるようです。様々な本を読んで、その内容について語り合い、かきたてられた想像や考えを共有することで、恋人関係も含め、更に緊密な人間関係を築く上で役に立つとのこと。そう耳にすると、本を読んでみたくありませんか。読書は多様な分野の知識を授けてくれたり、視野を広げてくれたりするだけでなく、コミュニケーション力の向上にも役立つ可能性があるのです。しっかりとした知識に裏づけされた議論を交わすことができる人は、他者を惹きつける、コミュニケーション力の高い人でもあるでしょう。

読書はそのような魅力的な人間になる容易な第一歩です。幼虫から蛹 (さなぎ) の段階を経る蝶は、蛹の時期に体の仕組みや形を完全に換え、美しい蝶へと生まれ変わります。大学時代の学びは蛹の時期に相当するかもしれません。皆さんには、完全変態 (complete metamorphosis) する蝶のごとく、知識を蓄え、論理的・批判的な思考力を養い、うわべだけで中身が空っぽの社会人ではなく、しっかりとした中身のある魅力的な社会人として世界へと旅だってほしいと思います。そのためにも図書館を最大限に活用して下さい。

(安田優 未来創造学部教授)

～～ 本とわたし ～～

「本」というと「読書感想文」というイメージが強くて、なかなか本に手が出ないということはありませんか？ 実は私がそうなのです。夏休みなどの宿題 The 読書感想文は本当に苦しい存在でした。そもそも文章を書くのが苦手で、この原稿も締め切り日になってようやく手をつけたのです。

けれども、思い返すと小さい頃から本には親しみがあつたし、学校に限らず図書館にはお世話になってきたものです。小さい頃は母に持たされた読書ノートを埋めるために、中学・高校のときには勉強場所として、大学に入って以降は調べもののために図書館に通いました。そう思うと、本そのものは嫌いじゃないんだなーと気づかされます。なので、今は仕事を離れたときも本に触れていることが増えているように思います。ただし、それは知識を得るためというよりは慌ただしい日常から自分をリセットするためかもしれません。図書館や書店独特の紙の香りや絵本に癒され、素敵な表紙に一目惚れして新しい趣味を始めた、「泣ける」本で泣いてみようと思ったり。

本にはいろんな出会いがあります。難しく考えずに素敵な出会いを求めてみませんか？

(山崎真津美 薬学部准教授)

～～ 同じことを考えている仲間がさらに何を企んでいるのかを探る場所 ～～

私は元々看護師、臨床工学技士としての職業経験があります。配属先の病棟の特殊性を知り、治療やケアに必要な知識を得るために参考となる図書や研究のための文献を多く活用します。例えば、ある病院の新しいケアの取り組みが患者さんの治療・回復に役に立ったという文献があると、それを自施設でも導入してみたら同じように良い効果が得られ、患者さんの回復につながるのではないかと考えることがあります。一人の報告が、それを読んだ多くの方に知られ、さらに多くの方に再現されるとその新しいケアの効果がより科学的に実証され確立した技法として多くの患者さんへ活かされ、回復促進につながっていきます。

図書や文献に出会うことがなければ現代医療に即した、科学的根拠を持ったケアを提供することは難しいと考えます。仲間が何をしているのか、さらにどんなアイデアを企んでいるのか常にアンテナを張り巡らせることは大切なことです。そのツールとしてまずは、身近な図書館を利用したいものです。

(高橋純子 新学部設置準備室准教授)

～～ 図書館には情報がたくさん！ ～～

本に触れていると、意外と良いことがあります。私の場合、ひょんなことで何かのきっかけとなる本に出会うことがよくあります。私事、専門雑誌での話ですが、過去に痛感したことがあります。私が研究に夢中な若かりし頃（インターネットなんてない時代）、図書館に必ず新着論文雑誌を読みに通っていました。うまく実験がいかなくて悩んでいたある日、いつものように図書館に行って雑誌に目を通していると、偶然にも「答え、ヒント」が書かれた雑誌に遭遇したことがありました。「これっ！」と思い早速その方法を試して、きれいなデータを出したことがあります。また、ただおもむろに手に取って開いた本からアイデアが浮かんだこともありました。私の知人の結婚式などで「うまい」、人の心を「グッ」と掴むスピーチをする方がいました。その方は、心に残る言葉を本から引用していました。

こういったことから、本に触れることは、情報をいち早く得ることができ、アイデアが浮かび、表現力も豊かになるなどのメリットがあると思います。そのほかにもまだまだメリットがあるはずです。

図書館にはそんな環境が整っています。ぜひ利用し本に触れてみましょう。

(鈴木宏一 薬学部講師)

平成28年度日本薬学図書館協議会研究集会開催

8月25日(木)～26日(金)の2日間、平成28年度日本薬学図書館協議会研究集会が、本学図書館薬学部分館が担当館となって開催されました。

研究集会のテーマは「薬学図書館からの教育・研究サポート プラス1」で、全国の加盟館員や個人会員の方等、52名に参加いただきました。研究集会では、本学の村山教授他全3名の講演、5名の事例報告の後、「図書館から、今の教育・研究サポートを再考する 一求められるサポートから、提供するサービスへ」のテーマで4つのグループに分かれて活発なグループ討議及び発表が行われました。



第1回読書推進懇談会を開催

学生と図書館委員との懇談会 ～学生の声を図書館へ～

平成28年7月7日（木）、図書館本館ソフィアルームで、薬学部生6名、未来創造学部生5名、留学生別科生2名と図書館委員との懇談会を開催しました。懇談会では、普段から図書館を利用している学生の皆さんの視点から、図書館に対する多くの意見・要望が出されました。

主な要望及び対応は次のとおりです。

- 試験期間中、本館の土曜・日曜の開館時間延長・・・定期試験期間に合わせ、18：00まで開館します。
- 話題の本、就職関係本などの購入・・・図書館委員会でも選定しますが、リクエストもご利用ください。
- ブラウジングコーナー雑誌の増加・・・アンケート調査を実施し、希望の多いものを購入する予定です。
- 新刊本などの案内・・・・・・・・・・図書館のホームページ掲載以外に、掲示版にもリストを掲示しました。
- 全館で飲み物を OK に・・・・・・・・・・蓋がしっかり閉まるものに関り持ち込み OK としました。



第2回読書推進懇談会を開催します。
 学生の読書活動を推進するためにはどうしたらいいか、図書館委員と一緒に企画等を考えましょう。
 参加ご希望の方は図書館までお申し込みください。詳細についてはホームページと掲示でお知らせします。

寄 贈 図 書

本学の教職員から、下記のとおり図書の寄贈がありました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

書 名	寄 贈 者
『ブラック・スワン降臨』他	計 39 冊 泉 洋成（理事）
『解決学 15 の道具』他	計 62 冊 三浦 雅一（薬学部長）
『教師が知っておくべきネット社会とデジタルのルール』他	計 6 冊 東風 安生（未来創造学部教授）

平成28年3月で退職された未来創造学部的小林忠雄教授から、図書3,379冊、雑誌等の資料805点の寄贈があり、「小林民俗文庫」として整備しました。また、未名文庫の追加分として、図書1,515冊、雑誌等の資料482点が寄贈されました。

北陸大学図書館報 NO.41
平成28年10月25日発行

編集・発行：北陸大学図書館 〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1 TEL. 076-229-3021 FAX 076-229-4850
 Eメール：tlib@hokuriku-u.ac.jp 北陸大学図書館ホームページ：http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/campus/library.html

※北陸大学図書館報は、ホームページでもご覧いただけます。